

クリスマス、おめでとうございます。新たにお生まれになったイエス様の愛と平和が、信者の皆さんに豊かに注がれるよう、お祈りいたします。今年は「新型コロナウイルスの年」と言っても過言ではないほど、年明けから毎日、この病気に関する話ばかりでした。でも、状況は変わらず、むしろ、もっと厳しくなっているようです。多くの人々がすでに大切な命を失い、また、全世界のすべての人がこの病気との戦いに全力を尽くしている現実です。どれほどの代価を払ったら、この悲しくてつらい時間が終わるかは分かりませんが、何よりも大切な命がこれ以上失われないよう、すべての人が心と力と知恵を一つにすべきだと思います。そのために、私たちはもっと切に神様に祈り、神様の慈しみと助けを求めなければならぬと思います。どうか、赤ちゃんの恵みによって、私たちがこの危機から守られ、すべての人が神様を真の命の主であることを認めることができますように。

さて、先週の日曜日、私は教会学校の子供たちと共に、小さなクリスマス会を行いました。今年は信者の皆さんと共にすることができずとても寂しかったですが、とにかく、子供達との素朴なクリスマス会は、短い時間でしたが、特別な感動を与えてくれました。その集いの中で、私たちは『ファーストクリスマス』という短いアニメーション（映画）を見ました。その内容はタイトルが示している通り、イエス様誕生のお話でしたが、そこで、わたしが感じたことを少し分かち合いたいと思います。そのアニメーションは、東方からイエス様の所へ向かう三人の博士たちの姿から始まり、それから、マリアとヨセフのベツレヘムへの旅や、荒れ野で天使たちの知らせを受けた羊飼いたちの巡り、そして、その全ての人々が赤ちゃんのイエス様の前に集まって喜ぶ場面で終わりました。私はそのアニメーションを見ながら、その全ての人々が神様の御言葉に従って、イエス様に出会うことができたと思いました。確かに、マリアは御言葉を受けてイエス様を身籠り、ヨセフはガブリエルの話を受け止めてマリアを妻に迎え入れ、荒れ野の羊飼いたちは天使の知らせに従って巡り、博士たちは星に導かれました。そうして、皆が最後には預言者の預言を受け入れて、命の主であるイエス様に会うことができたのです。やはり、私たちも神様の御言葉

にしたが従い、また、みちび導かれることによって、イエス様さま あに会うことができます。その神様かみさまの御言葉みことばは慈しみといつくあわれみと愛の御言葉あわれで、それにしたが従わずにイエス様さま あに会えることなどあり得ないことです。

ところで、たんじょう誕生という言葉は、言葉ことばの「言」と、げん延ばすの「延」、また、生まれるの「生」という漢字かんじの組み合わせで成っています。言葉遊びことばあそのような気がしますが、神様かみさまの御言葉みことばであるイエス様さまは人間の救いにんげんのため、わたし私たちと同じ姿おなでお生まれになりました。それはわたし私たちがイエス様さまのように生きることによつて、神様かみさまの永遠えいえんの命いのちに与あずかることができるようにするためでした。神様かみさまはその御言葉みことばをすべての時代じだいのすべての人ひとにまで延ばされ、皆みなが真しんの命いのちに与あずかれることを望のぞんでおられるのです。もし、「誕生たんじょう」という言葉ことばをこのように解とくならば、たし確かに、わたし私たちは神様かみさまの御言葉みことばにしたが従わなければ、生きていても、生きているとは言いえないでしょう。今いままで人類じんるいはこの世よの様々なやかましい声こゑに耳みみを傾かたむけ、神様かみさまの御言葉みことばからは遠とおざかってしまったと思おもいます。併あわせて、この新型しんがたコロナウイルス禍かでのイエス様さまの新たな誕生あら たんじょうの意味いみを、もつと真剣しんけんに受うけ止められたら幸さいわいです。この聖せいなる日ひを過すごしながら、わたし私たちがイエス様さまに倣ならって、神様かみさまだけにしたが従ひとう人ひととなることのできるよう、心こころを込こめて祈いのりましょう。